



散布日	散布時期 定植からの日数	散布薬剤（水 10ℓ当り）	濃度	散布量 1 a 当り	発生病害虫	注意事項
／	定植直後	①オルトラン粒剤 ユニフォーム粒剤	-	600 g 1.8 kg	アブラムシ類、ヨトウムシ類 アザミウマ類（ネキリムシ類） 立枯病（リゾクトニア菌）	①カブラヤガ等ネキリムシ類は、朝夕の涼しい時が捕殺しやすい。 ②ユニフォーム粒剤を畝面のみ散布する場合は半量（9 kg/10a）を定植後散布する。
／	20 日後 生育期	②オンコル粒剤 5	-	600g	アザミウマ類、（ミカンキイロアザミウマ）、（コガネムシ類）	①食害吸汁によるウイルス病発生に注意する。 ②立枯病予防としてリゾレックス水和剤 1,000 倍を株元に散布してもよい。
／	40 日後 抽苔期	③展着剤（ハイテンパワー）（1mℓ） トップジンM水和剤（6.6g） オルトラン水和剤（10g）	10,000 倍 1,500 倍 1,000 倍	20ℓ	菌核病、（灰色かび病）、（立枯病） アブラムシ類、アザミウマ類、 ヨトウムシ類、アオムシ	①トップジンM水和剤は、地表面にもたっぷり散布し、立枯病の発生を抑制する。 ②抽苔期は、ウイルス症状が発生しやすいため誘引粘着シート使用も行い、アブラムシ類、アザミウマ類の予防に努める。
		取り寄せ 誘引粘着シート設置（青、黄色）		20 枚		
／	55 日後 生育期	④展着剤（ハイテンパワー）（1mℓ） アクタラ顆粒水溶剤（5g）	10,000 倍 2,000 倍	20ℓ	ハモグリバエ類、（コナジラミ類、アブラムシ類、アザミウマ類）	①ヨトウムシ類の発生がある場合は、プレオフロアブル 1,000 倍を加用する。
／	70 日後 生育期	⑤展着剤（ハイテンパワー）（1mℓ） ノーモルト乳剤（5mℓ） コルト顆粒水和剤（2.5g） オーソサイド水和剤 80（16.6g）	10,000 倍 2,000 倍 4,000 倍 600 倍	30ℓ	立枯病、茎腐病 アブラムシ類、コナジラミ類、 （チャノキイロアザミウマ）、ヨトウムシ類	①コルト顆粒水和剤は、速効的で吸汁行動阻害する。代替：トレボン乳剤 1,000 倍 ②ノーモルト乳剤は耐雨性、残効性に優れているが、効果は遅効的のため害虫発生園は代替：プレオフロアブル 1,000 倍を使用する。 ③オーソサイド水和剤 80 は地際にも散布する。
／	85 日後 生育期	⑥展着剤（ブレイクスルー）（1mℓ） アクセルフロアブル（10mℓ） トップジンM水和剤（6.6g）	10,000 倍 1,000 倍 1,500 倍	30ℓ	菌核病、斑点病 オオタバコガ	①トップジンM水和剤は地際にも散布予防的防除が非常に重要。 ③降雨後は、換気を行い灰色かび病の発生の耕種的防除を行う。 ④アクセルフロアブルは、食毒のため着蕾前に散布する
		取り寄せ 新しい誘引粘着シート設置（青色）		20 枚		
／	95～100 日後 出蕾期	⑦展着剤（ブレイクスルー）（1mℓ） アフェットフロアブル（5mℓ） ディアナ SC（2mℓ）	10,000 倍 2,000 倍 5,000 倍	30ℓ	灰色かび病、 オオタバコガ、ハスモンヨトウ （コナジラミ類、アザミウマ類 には2,500 倍～）	①アフェットフロアブルは予防効果に優れるため発生前散布とする。灰色かび病発生園はアフェットに代えてピクシオDF2,000 倍を散布する（治療）。ニンニク臭ある場合がある。 ②ディアナ SC は、オオタバコガ、ヨトウムシ類に卵、幼虫各ステージに効果が期待できる。 ③出蕾期は特に病害虫に注意する
／	前回散布より 1 週間後 開花期	⑧展着剤（ブレイクスルー）（1mℓ） ポリオキシシ AL 水溶剤（4g） ヨーバルフロアブル（3.3mℓ）	10,000 倍 2,500 倍 3,000 倍	30ℓ	灰色かび病、ハダニ類 オオタバコガ、アザミウマ類	①高温時は薬害になりやすいため涼しい時間帯に防除を行う。 ②ヨーバルフロアブルは、広範囲の害虫に高い効果があり、残効もある。 ③アザミウマ類が多発している場合は、アクタラ顆粒水溶剤 1,000 倍を加用する。
／	前回散布より 3 週間後 収穫直前	⑨展着剤（ブレイクスルー）（1mℓ） フルピカフロアブル（5mℓ） プレオフロアブル（10mℓ）	10,000 倍 2,000 倍 1,000 倍	30ℓ	灰色かび病 オオタバコガ、（アザミウマ類）	①箱内病害発生を抑制するために収穫前防除は必ずおこなってください。 ②プレオフロアブルは、経口経皮にて速効性があり、残効、耐雨性もある。
／	収穫中	⑩展着剤（ブレイクスルー）（1mℓ） トレボン乳剤（10mℓ） アフェットフロアブル（5mℓ）	10,000 倍 1,000 倍 2,000 倍	30ℓ	灰色かび病 ハスモンヨトウ、（アザミウマ類、コナジラミ類）	①収穫中も薬剤散布は必ず行い、「病害虫発生ゼロ」を目指す。

* 定植からの日数は、定植する時期により異なるため生育期を目安に散布する。また、灰色かび病は梅雨期及び 7 月上旬に発生が見られるので、発生初期から防除する。
* オオタバコガ発生状況は、7 月上旬、7 月中旬、8 月上旬、9 月上旬のため例年多発する園地は事前の防除を心がける。
* アザミウマ類、ハダニ類、コナジラミ類は、発生初期から特別防除を行い、多発しないように努める。誘引粘着シートを設置し発生予察する。
「ピタットトルシー」捕獲用 10a 200 枚（3m に 1 枚の目安）、予察用 10 枚
* 混用例 水 → 展着剤 → 液剤 → 乳剤 → 顆粒水溶剤 → 水溶剤 → フロアブル剤 → DF → 顆粒水和剤 → 水和剤
展着剤 果樹栽培者は、ブレイクスルー に代えて ササラ 3,000 倍 でもよい

当防除暦の複製・コピーを禁止します。

トルコギキョウ農薬使用基準

	薬剤名	薬剤系統(一般名)	RAC コード	対象病害虫名	希釈倍率	使用回数
殺菌剤	オーソサイド水和剤 80	キャプタン系	M4	立枯病、茎腐病、苗立枯病	600 倍	8 回以内
	リゾレックス水和剤 (取り寄せ)	トルクロホスメチル(有機リン系)	14	立枯病 (リゾクトニア菌)、株腐病、白絹病 茎腐病	500 倍～1,000 倍	5 回以内
	ユニフォーム粒剤	アゾキシストロビン メタラキシル M	11 4	立枯病 (リゾクトニア菌)	18kg/10a	3 回以内
	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ チオファネートメチル	10 1	灰色かび病	1,000 倍	5 回以内
	トップジン M 水和剤	チオファネートメチル	1	菌核病、斑点病	1,500 倍	5 回以内
	ポリオキシシ AL 水溶剤	ポリオキシシ複合体	19	灰色かび病、うどんこ病、黒斑病、 アザミウマ類、ハダニ類	2,500 倍	8 回以内
	ピクシオ DF	フェンピラザミン	17	灰色かび病	2,000 倍	4 回以内
	フルピカフロアブル	メパニピリム	9	灰色かび病	2,000 倍～3,000 倍	5 回以内
	アフェットフロアブル	ペンチオヒラド	7	灰色かび病、うどんこ病	2,000 倍	3 回以内
	セイビアーフロアブル 20 (取り寄せ)	フルジオキシニル	12	灰色かび病	1,000 倍	4 回以内
	トレノックスフロアブル	チウラム(ジチオカーバメート系)	M3	灰色かび病	500 倍	6 回以内
	ダコニール 1000	TPN	M5	斑点病、うどんこ病	1,000 倍	6 回以内
殺虫剤	ロムダンフロアブル (取り寄せ)	テブフェノジド(昆虫成長制御剤) I G R 系(脱皮促進剤)	18	シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ	1,000 倍	2 回以内
	ノーモルト乳剤	テクルベンズロン(昆虫成長制御剤) I G R 系(キチン合成阻害)	15	ヨトウムシ類	2,000 倍	2 回以内
	オンコル粒剤 5	カーバメイト系	1A	アザミウマ類	6kg/10a	3 回以内
	劇) アドマイヤーフロアブル	ネオニコチノイド系	4A	アブラムシ類	2,000 倍	5 回以内
	劇) モスピラン顆粒水溶剤			アザミウマ類 2,000 倍 アブラムシ類	2,000 倍～4,000 倍	5 回以内
	アルバリン顆粒水溶剤			アブラムシ類、コナジラミ類	2,000 倍～3,000 倍	5 回以内
				ハモグリバエ類	1,000 倍	
	アクタラ顆粒水溶剤			ミカンキイロアザミウマ	1,000 倍	6 回以内
				ハモグリバエ類、コナジラミ類	2,000 倍	
	アディオン乳剤	ペルメトリン	3A	アブラムシ類 2,000 ～ 4,000 倍 ヨトウムシ類、カメムシ類	2,000 倍	6 回以内
	劇) スカウトフロアブル	トラロメトリン		アブラムシ類 アザミウマ類 2,000 倍	2,000 倍～3,000 倍	5 回以内
	劇) テルスターフロアブル (取り寄せ)	ビフェントリン		ヒラズハナアザミウマ	4,000 倍	3 回以内
	トレボン乳剤	エトフェンプロックス		ハスモンヨトウ	1,000 倍	6 回以内
	ダニトロンフロアブル (取り寄せ)	フェンピロキシメート	21A	ハダニ類	1,000 倍～2,000 倍	6 回以内
	アフーム乳剤	マクロライド系	6	ハモグリバエ類、オオタバコガ、ヨトウムシ類、 アザミウマ類 2,000 倍	1,000 倍	5 回以内
	プレオフロアブル	ピリダリル	VN	オオタバコガ、ハスモンヨトウ、(アザミウマ類)	1,000 倍	4 回以内
	劇) コテツフロアブル	クロルフェナピル (呼吸阻害剤)	13	ヨトウムシ類・ミカンキイロアザミウマ、 ハダニ類	2,000 倍	2 回以内
	オルトラン粒剤	アセフェート	1B	アザミウマ類、アブラムシ類、ヨトウムシ類、ア オムシ(水和剤のみ)	3～6kg/10a	合わせて 5 回以内
	オルトラン水和剤				1,000 倍	
	スミチオン乳剤	MEP		アザミウマ類、ハマキムシ類、バッタ類、アオムシ	1,000 倍	6 回以内
	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	9B	コナジラミ類、アブラムシ類	4,000 倍	4 回以内
	ディアナ S C	スピネトラム	5	オオタバコガ、アザミウマ類、ハモグリバエ類 コナジラミ類、クロバネキノコバエ類 2,500 倍	2,500 倍～5,000 倍	2 回以内
	アクセルフロアブル	メタフルミゾン	22B	オオタバコガ	1,000 倍	6 回以内
	ヨーバルフロアブル	テトラニリプロール	28	オオタバコガ、ハスモンヨトウ	2,500 倍～5,000 倍	3 回以内

当防除暦の複製・コピーを禁止します。

病害虫発生前の早期防除に取り組み、安全・安心な農産物生産しましょう。